

「08年北京武術トーナメント」6人の出場権を獲得!!

男女太極拳, 男女南拳, 男子長拳, 男子散手70kg級に

◎「08年北京武術トーナメント」の出場資格:

「08年北京大会」は、来年の北京オリンピックの開催期間中の8月21～24日に、今大会と同じ「国家オリンピックスポーツセンター体育館」で行われる。

「08年北京大会」では、套路競技は下記の男女計10種目が実施される。

今回の「世界選手権大会」で下記に該当する種目のそれぞれ上位6人が「08年北京大会」の出場資格を得ることができるもの。上位6人に、さらに大陸別優先枠(ワイルドカード)として、各2人が加えられて、各種目とも8人が出場する競技となる。

「08年北京大会」競技種目;

- 男子 ①太極拳・太極剣総合
②南拳・南棍総合
③長拳
④刀術・棍術総合
⑤剣術・槍術総合

- 女子 ①太極拳・太極剣総合
②南拳・南刀総合
③長拳
④刀術・棍術総合
⑤剣術・槍術総合

なお、散手競技は、「08年北京大会」では、男子3階級(①56kg級, ②70kg級, ③80kg級), 女子2階級(①52kg級, ②60kg級)の計5種目が実施される。

◎套路競技で金1, 銀1, 銅3を獲得:

套路競技には、孫建明監督, 孔祥東コーチ, 丹井均コーチが率いる男女計10名の代表選手が下記の6種目に出場した。

1. 男子太極拳・太極剣=下田賢大, 田村良太
2. 女子太極拳・太極剣=宮岡愛, 山岸カヤ, 佐藤直子
3. 男子南拳・南棍=松浦新, 中田光紀
4. 女子南拳・南刀=小島恵梨香
5. 男子長拳=市来崎大祐, 下村有輝

6. 男子刀術・棍術=市来崎大祐, 下村有輝
大会第1日目で日本が出場したのは、男子南棍, 男子刀術, 女子南拳であった。どの種目も難度動作のわずかな失敗などの影響で、上位進出できず、前途の厳しさを感じさせるスタートとなった。

しかし、2日目の午前に男子太極剣で下田選手がいきなり金メダルを獲得し、男子南拳で松浦選手が銅メダルを獲得した。引き続き、夜の試合では女子太極剣で宮岡選手が銅メダル, 佐藤選手が5位, 山岸選手が8位入賞するという好成績が続いた。

3日目は、女子南刀で小島選手が銀メダル, 女子太極拳で宮岡選手が銅メダルを獲得した。

4日目の男子長拳は、エントリー選手数が125人と史上最多エントリーによる試合であったが、市来崎選手が実力を発揮して6位入賞を果たした。この最多出場選手のなかでの6位は立派な成績であり、また、「08年北京大会」の出場資格を獲得することができた。

日本は男子刀術・棍術総合の種目を除く5種目で6位以内を獲得して、これらの種目の「08年北京大会」に出場する資格を獲得する

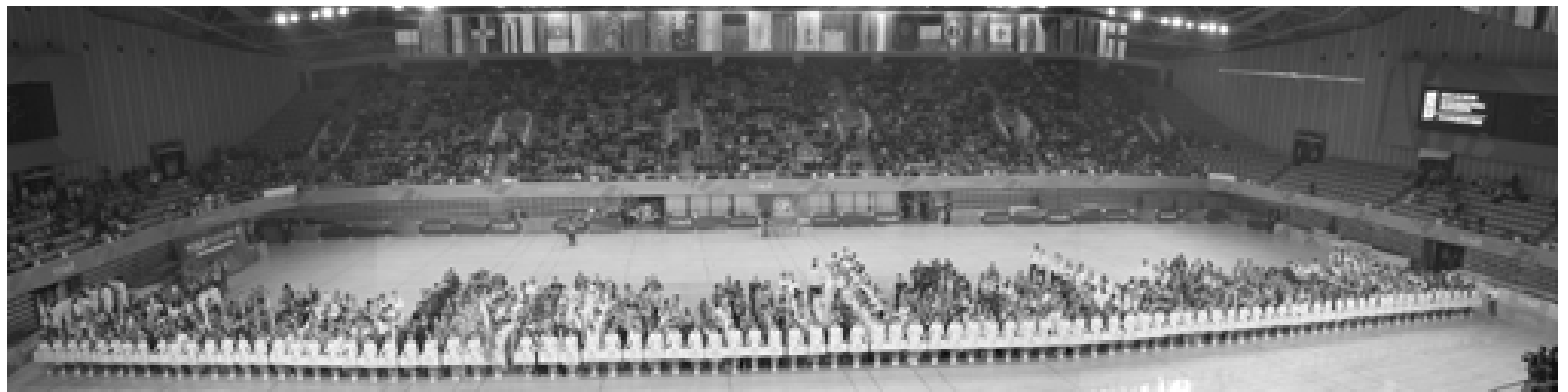


ジェット・リーといっしょに 日本選手団の套路チーム
ことができた。

各国が08年「北京オリンピック大会」を目指して凌ぎを削る激烈な試合のなかで、日本が5種目に進出を果たすことができたのは事前の予想をはるかに上まわる快挙であった。

また、ほぼ全員が今大会の8位以内の入賞を果たすことができたのも喜ばしい。

この数年間は、世界各国で武術の普及が進



第9回世界武術選手権大会の開会式で勢ぞろいした各国・地域の選手たち

み、選手強化策が進展してきた結果、多くの国で、武術選手の「プロ化」あるいは「フルタイム訓練態勢」が敷かれている。「フルタイム訓練態勢」では、スポーツ行政機関や武術連盟等の管理の下で、選抜された選手が生活と教育の保障を受けて、朝から夜まで、毎日武術訓練を受けることができるもので、下記のメダルランキング上位15カ国中で、日本を除く12～13カ国・地域が「プロ体制」、「フルタイム訓練態勢」あるいはそれに準じる取り組みのもとで選手強化を行っている。

このようななかで、日本は学生または職業を持つアマチュア選手が、練習時間の制約を受けるなかで、懸命な努力を重ねた結果、この好成績を獲得した。なによりもまず、日本選手の情熱と努力を讃えたい。

多くの国が数カ月、半年、一年と長期間にわたる中国での特別訓練に取り組んできたなかで、日本チームは、9月末に1週間の北京合宿を行った。下田選手、小島選手は北京合宿の後も、中国に単身で居残り、11月の大会まで訓練を受け続けた。その結果が、金、銀のメダルに繋がった。

他の選手も、10月22日から北京入りをして、大会が始まる11月10日まで特訓を受け続けたことが功を奏した。各選手ごとの訓練態勢を確保するために、中国の各機関やコーチとの調整や現地ドクター、トレーナーによるバックアップ態勢を整えるために奔走した孫建明監督の功績も讃えなければならない。

孔祥東、丹井均コーチも十分に選手を支える役割を果たし、チームが一丸となって勝ち取った成績であった。

◎散手競技で5位入賞、08年出場権を獲得：

今大会には、日本連盟加盟の「東京散手倶楽部」が国際試合を経て選抜した3人の選手が出場した（52kg級＝秦文也、56kg級＝平安孝行、70kg級＝笹沢一有の3選手）。

そのなかで、70kg級の笹沢一有選手は3回戦を勝ち上がり、準々決勝（ベストエイト）

に進出した。大会順位は規定により5位であった。散手競技は、今大会の上位8人が、「08年北京大会」に出場することができるもので、笹沢選手は、70kg級で見事、北京への切符を獲得した。

◎今大会の套路競技のメダル獲得数(散手競技は除く)

	国・地域	金	銀	銅	4	5	6	7	8
1.	中国	9	0	0	0	0	0	0	0
2.	マカオ	2	5	3	0	2	3	0	0
3.	香港	2	4	3	1	4	4	2	1
4.	中国台北	2	3	0	3	2	1	2	1
5.	ベトナム	1	3	4	2	1	1	1	1
6.	マレーシア	1	2	4	7	1	2	0	2
7.	日本	1	1	3	1	2	3	0	2
8.	ロシア	1	1	1	2	0	1	2	3
9.	インドネシア	1	1	0	4	1	0	1	0
10.	フィリピン	1	0	0	1	1	1	2	0
11.	イタリア	1	0	0	0	1	0	0	0
12.	ミャンマー	0	1	2	1	1	1	2	0
13.	韓国	0	1	0	0	0	1	5	2
14.	カナダ	0	0	1	0	2	0	3	4
15.	イラン	0	0	1	0	0	0	0	1
16.	アメリカ	0	0	0	0	2	3	0	0
17.	シンガポール	0	0	0	0	2	0	0	1
18.	ウクライナ	0	0	0	0	0	1	0	0
19.	オランダ	0	0	0	0	0	0	1	1
20.	キューバ	0	0	0	0	0	0	0	1
21.	スペイン	0	0	0	0	0	0	0	1
22.	イスラエル	0	0	0	0	0	0	0	1

◎日本から6人が北京への切符を獲得：

日本は套路競技に5人、散手競技に1人の計6人が「08年北京大会」の出場権を得た。

大会翌日の12月18日に国際武術連盟（IWUF）の技術委員会と執行委員会が開かれて、今大会の成績に基づく「08年北京大会」の出場権の獲得状況を各種目の成績ごとに確認し、承認した。

今大会での選抜の趣旨に基づいて、套路競技は上位6位以内に入った選手の成績によって、その選手が所属する国が出場権を得るが、選手が怪我などをした場合には、今大会の同

一種目に出場した選手がある場合に限り、その選手と交替することができる事が確認された。

これにより、今大会に出場した10人の日本選手は、来年も互いに競い合っレベルを上げ、最も条件の良い選手を出場させることができることになった。